

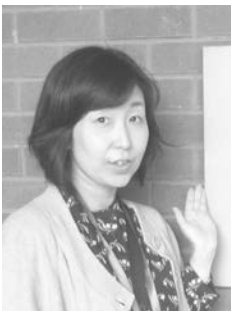
II 特別連載 II

科学技術振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第271回

2020年初旬以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、さくらサイエンスプログラムでも招へいが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を続けている。今回は岡山大学からのレポートを紹介するとともに、JSTが実施しているオンライン大学訪問(京都大学)の様子も紹介する。

岡山大学の活動報告



中村 有里 (岡山大学工学部創造工学センター技術支援専門職員)

4カ国7大学で持続可能な

材料化学を学ぶオンラインセミナー

岡山大学工学部では今年1月12〜13日、さくらサイエンスプログラムフォローアップ支援のオンラインセミナーを実施した。セミナーでは持続可能な材料化学を学ぶことから、「SDGs Seminar 2021 Winter」と題して開催し、4カ国7大学(中国・浙江大學、浙江工業大學、厦門大學、マレーシア・プトラ大



化学実験動画(板倉研究室にて)



浙江大学ルル・ライさんからのメッセージ

なお、本セミナーは岡山大学SDGsアンバサダーでもある岡山大学工学部の中村有里技術専門職員が主催し、活動の様子は、岡山大学のウェブサイトに掲載されている。今後もさくらサイエンスプログラムでいただいた「絆」を大切に、国際オンラインセミナーなどを通じて、持続可能な国際交流活動を推進してまいりたい。

学、マラヤ大学、および、シンガポール国立大学と岡山大学)の52人が参加した。参加大学はいずれも2014年〜2018年に岡山大学工学部を中心として実施した、さくらサイエンスプログラムに参加しており、岡山大学との共同研究や留学生の受入れなどの国際交流を継続している。開会に先立ち、阿部匡伸工学部長が挨拶し、続いて、大学院自然科学研究科(工)・尾坂明義特命教授、福岡歯科大学・都留寛治教授が材料化学に関して講演。さらに海外の大学および岡山大学の教職員が、プレゼンテーションや議論を行った。また、工学部の独自取り組みであるフォーミュラ・プロジェクトや工学部・坂倉彰教授研究室で行った特徴的な化学実験(大学院自然科学研究科(工)溝口玄樹助教・工学部4年安部岳さんが実演)を、字幕付きの映像(株iプランニングKOHWA吉行史生制作・清水健夫撮影)で紹介することで、オンラインならではの「学び」を共有した。さらに、過去のさくらサイエンスプログラム参加者(2016年さくらサイエンスプログラム参加時、浙江大學ウー・ジンミン研究室に所属、ルル・ライさん他9名)にオンラインで事前インタビューし、次世代の学生達にメッセージビデオも届けることもできた。本セミナーは岡山県立岡山一宮高等学校教諭にも公開した。2020年度は、マレーシア・プトラ大学とシャアラム技術専門学校の学生を招へいし、岡山県内で高大連携セミナー等を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の状況により残念ながら実施できなかった。本セミナーは今後の国際高大連携においても大いに参考にもなった。参加者のうち、2014年度にさくらサイエンスプログラムに参加した浙江工業大学 シャオ・ファン准教授は、世代を超えて自らの指導学生と一緒にセミナーに参加できて嬉しい。今後ともよい関係を継続したいと話した。

さくらサイエンス・ハイスクールプログラム

JST、オンライン大学訪問〜京都大学〜

科学技術振興機構(JST)は、7月17日に京都大学とともに、第5回さくらサイエンス・ハイスクールプログラム「オンライン大学訪問〜京都大学〜」を開催した。オンライン大学訪問は、本来ならハイスクールプログラムで日本に招へいされるはずだった海外の高校生に参加してもらおうオンラインイベントで、日本の大学に関心をもってもらう、日本に留学する意欲を高めてもらうことが狙いである。今回の京大は、初回の東京工業大学(昨年12月5日)から通算して5回目となる。

本イベントは、京大吉田キャンパスの「シンポジウムホール」(国際科学イノベーション棟)から、7月17日午後3時よりZoomウェビナーでライブ配信された。冒頭、宮川恒・京大副学長(国際高等教育院長・吉田カレッジオフィス室長)が歓迎挨拶を行った。京大が古都の「誇り」、東京に流されない「自立」、全国初の水力発電所の建設などにみる「革新」の精神を有すると述べた上で、京大では「研究者養成」の設立趣旨が継承され、学問の自由を謳歌していると熱弁を振るわれた。

次の「大学・国際プログラム」紹介では、服部寛子さん(国際高等教育院・吉田カレッジオフィス)は京都の文化・歴史・立地の良さに触れ、ノーベル賞受賞者を多数輩出、総合大学として専攻分野が豊富なこと、高い留学生受入れ実績などの京大の強みを挙げた。大学説明に続き、服部さんは学部生向け国際プログラム「iUd (International Undergraduate Program)」を紹介した。iUPは、入試において日本語試験は課されず、海外からの新入生は日本語を半年間集中学習した後、一般教養・専門課程で日本人学生とともに日本語及び英語での授業を受ける点に特徴を有する。セッション後半では、テイラボン・ピパットボンサー准教授が、「工



宮川副学長による歓迎挨拶



Q&Aセッション。司会の吉中さんと登壇者



西野教授



北島教授

■京都大学の回(アーカイブ)
URL:<https://ssp.jst.go.jp/EN/jst/online6.html>

■「オンライン大学訪問」トップページ
URL:<https://ssp.jst.go.jp/EN/jst/online.html>

学部地球工学科国際コース(Undergraduate International Course Program of Civil Engineering (ICP))を紹介。同コースも学部課程から英語で講義を受けられるのが強みで、中国・インドネシア・韓国等から多数の留学生が参加している。

留学生セッションでは、モンタネス・マリヤナ・イサベラさん(フィリピン出身)とイエン・チェンダーさん(中国出身)が、京大や所属コースを選んだ理由、授業・研究の様子、日常生活や課外活動について発表した。

今回、模擬授業として、西野恒・情報学研究科教授が、「Seeing with AI」という題目で、コンピュータがカメラを通して物体を認識する仕組みを光学的・機械工学的アプローチで豊富な画像・映像を用いて説明し、人工知能が「知覚的」に物をとらえる研究を披露した。また、北島薫・農学研究科教授は、「Forests and Sustainable Development Goals」という題目で、森林が地球規模で気候・生態系に及ぼすメカニズム等について、世界各地の熱帯雨林でのフィールドワークを紹介しながら概説した。

日本学生支援機構の日本留学制度説明の後、「Q&A」が行われ、司会の吉中真優さん(国際高等教育院・吉田カレッジオフィス)が参加者からの質問を登壇者に投げかけた。参加者に年齢の近い留学生の回答は毎回注目を集めるが、「いま受講科目で最も興味深いのは何か」「研究室で日本人の仲間と学ぶのはどんな感じか」といったストレートな問いに真摯に答える留学生の姿が会場にフレッシュな空気を運んだ。また、西野・北島両教授にも参加者からの質問にお答えいただいた。

このイベントの収録動画は、「オンライン大学訪問」特設ページのアーカイブ(「さくらサイエンスプログラム」ウェブサイト)で視聴することが可能になっている。